

Swing JOURNAL

モック・コンペ・インターナショナル ジャズ界最大最高の新人登竜門

児山紀芳

マーカス・ロバーツ、ライアン・カイザー、ジョシュア・レッドマン、ジャッキー・テラソンらをシーンに送り出して、今や新人ジャズメンの登竜門となりつつある「モック・コンペティション」。昨年の11月にはボーカリストのコンペが行われるなど、その注目度はますます高まるばかり。ここではこのコンペの設立から現在までを歴代受賞者の凄い顔ぶれなどとともに紹介、また昨年のボーカル・コンペの様にもスポットを当てリポートする。



▲T.S.モック(中央)とモック未亡人ネリー(右)、シェルビー・フィッシャー(左:コンペのエグゼクティブ・プロデューサー)
Photo by Junichi Takahashi

世界的に高まる モック・コンペへの関心

テナー・サクスのジョシュア・レッドマンやピアニストのジャッキー・テラソンなど“モック・コンペ”の優勝者が毎年のようにジャズ界にホットな話題を提供するようになって、このところ“モック・コンペ”そのものに対する関心も世界的に高まってきたようだ。正式には「セロニアス・モック国際ジャズ・コンペティション」(The Thelonious Monk International Jazz Competition)と呼ばれるこのコンペは、1987年を第1回

にスタートしたジャズの新人登竜門である。主催するのは、アメリカの首都ワシントンD.C.に本拠を置くセロニアス・モック・ジャズ協会(会長はドラマーとして知られるセロニアス・モック2世:T.S.モック)。この協会は、元オペラ歌手で米国ベーターベン協会の創設者として知られるマリア・フィッシャー(1991年没)が“ジャズの未来を豊かにしよう”という主旨で、セロニアス・モックの遺族と協力しあって1986年に創設した非営利組織。翌87年からジャズの未来を担って立つニュー・スターを世界に広く紹介する目的でスタートさせ